



日耳鼻医会 FAXニュース

平成27年8月4日発行 第229号

※日本耳鼻咽喉科医会第40回臨床家フォーラム※ 「かごしまフォーラム2015」開催される



7月19日(日)・20日(月・祝)の両日、第40回臨床家フォーラム「かごしまフォーラム2015」が鹿児島県耳鼻咽喉科医会(会長:森山一郎)の担当で鹿児島県市町村自治会館とレンブラントホテル鹿児島で家族職員含め約230名が参加して行われた。

19日の午前中は生憎の曇りであったが「桜島周遊コース」と「知覧特攻平和会館と武家屋敷コース」の2つの観光ツアーが行われた。

分科会は鹿児島県市町村自治会館で午後1時55分、森山一郎フォーラム会長の挨拶で開会。アロマセラピー、禁煙外来、患者トラブル対処法、これからの医業経営などの4つの講演が行われた。また午後2時半からの職員・会員家族対象のスキルアップ講座では、コミュニケーションアップや医療従事者としての整容についての講演があり、80名以上の受講者で非常に好評であった。

午後7時からはレンブラントホテル鹿児島で懇親会が来賓も含め150名以上が参加して開かれた。ピアノとソプラノによるウエルカム演奏の後、来賓の黒野祐一鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部学教授、池田琢哉鹿児島県医師会会長(代理:鹿島直子先生)、猪鹿倉忠彦鹿児島市医師会会長の挨拶の後、清水淑郎日耳鼻医会顧問の乾杯で祝宴が始まった。また横倉日本医師会会長、伊藤鹿児島県知事、森鹿児島市長からお祝いのメッセージが届いた。宴もたけなわの頃、マジック暴威による大仕掛けのマジックショーがあり、楽しく盛り上がった懇親会であった。

二日目の全体集会では黒野祐一鹿児島大学教授の「扁桃に関する最近の話題」、丸山征郎鹿児島大学特任教授の「5000年前の男:Mr.アイスマンに学ぶ現代病の予防と治療作戦」、鮫島吉廣鹿児島大学客員教授の「焼酎にみる風土と風味」の講演が行われた。

講演終了後、第41回臨床家フォーラムの鈴木徹副実行委員長が来年9月18日(日)・19日(月・祝)の2日間、下関にて開催する予定であるので、多数の参加をお願いしたいと挨拶を行った。

最後に伊東祐久「かごしまフォーラム2015」実行委員長が、多くの方の協力と全国各地から多くの参加を頂き、無事にフォーラムを終わることが出来たと謝辞を述べて閉会となった。(講演などの詳細は会誌「かがみ」に掲載予定)

== お礼 ==

鹿児島県耳鼻咽喉科医会会長 森山一郎
「かごしまフォーラム2015」が、盛会裡に滞りなく終了したことをまず報告しますとともに、ご協力頂いた関係各位に衷心から深謝申し上げます。有り難うございました。あいに2日間とも雨で、ご参加頂いた先生方や職員におかれましては、期待した雄大な桜島も眼の当たりに見て頂くことが叶いませんでしたが、その分講演講座に集中できたのではないのでしょうか。さて、来年の臨床家フォーラムは山口県下関市での開催となります。薩摩から長州へとバトンタッチされる訳ですが、何か歴史的な因縁が感じられ、日本耳鼻咽喉科医会の何か新鮮な姿が彷彿とされ、楽しみがいや増します。それでは来年またお会いしましょう。

■舌下免疫スギ花粉治療で8割「改善」

千葉大学病院、患者アンケートの結果報告
千葉大学附属病院はこのほど、スギ花粉症を対象とした舌下免疫療法を受けている患者のうち、約8割が症状の改善を実感していると発表した。

千葉大学病院では、耳鼻咽喉・頭頸部外科教授の岡本美孝氏を中心に他の5施設とともに舌下免疫療法を実施している。2014年10月から2015年1月に同療法を始めたスギ花粉症患者102人にアンケートを行ったところ、「とても効いた」26%、「効いた」33%、「やや効いた」19%と約80%が症状の改善を感じる回答を寄せた。例年との症状比較でも、「軽かった」69%、「中程度だった」20%と治療の効果を示唆する回答が大半を占めた。

同院耳鼻咽喉・頭頸部外科では、予防治療の効果も検討しており、スギ花粉症の素因を持ちつつも症状のない被験者による臨床試験にも取り組んでいる。被験者が150人集まれば予防効果を検証できるとして、参加者の募集も行っている。

■医療費削減、地域間で競争を…

厚労省が比較データ提供
厚労省は来年度、後発医薬品(ジェネリック医薬品)の使用割合やメタボ健診(特定健診)の実施率など医療費関連のデータについて、地域間で比べられる形で都道府県に情報提供を始める。

厚労省は、都道府県別のメタボ健診受診率や1人あたりの医療費、病院ベッド数など既存のデータに加え、後発薬の使用割合や、医療機関の重複受診、薬の重複投与、生活習慣病の重症化予防の取り組み状況など、新たなデータを集め、グラフにまとめて都道府県に配る。グラフにはメタボ健診の実施率70%のように目標も表示する。厚労省は毎年、新たな情報を提供し、都道府県が医療費の低い他地域の取り組みを調べられるようにする。

■処方薬販売、TV電話でも可能に

政府は、薬剤師が対面で患者に服薬指導を行わなければならない処方薬の販売について、国家戦略特区の一部で、テレビ電話での服薬指導でも購入できるようにする。離島やへき地でも医薬品を購入しやすくするため、秋の臨時国会で関連法を改正する。

医師が処方する医薬品に関しては、過剰投与や副作用を防ぐ観点から、薬剤師が患者と対面し、アレルギー歴などを確認した上で投薬しなければならない。薬局がない地域に住む患者には、薬剤師が船に乗るなどして直接届けている。

医師には、患者宅に設置された専用モニターと病院をインターネット回線でつなぎ、問診や視診を行う遠隔診療が認められていることから、「薬剤師にも遠隔での服薬指導を認めるべきだ」との声が出ていた。

選択的ヒスタミンH1受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤 (薬価標準収載)

タリオン 錠5mg・10mg OD錠5mg・10mg

TALION[®] Tablets 5mg・10mg (日本薬用方 ベポタスチンベシル酸塩錠)
TALION[®] OD Tablets 5mg・10mg (ベポタスチンベシル酸塩錠口内崩壊錠)

【処方箋医薬品】(注意・医師等の処方箋により使用すること)

製薬元(資料請求先) 田辺三菱製薬株式会社
大阪府中央区東船場3-2-10

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む
使用上の注意等については、添付
文書をご参照ください。

2015年5月作成

発行 (特)日本耳鼻咽喉科医会
〒104-0031東京都中央区京橋2-11-8全医協連会館5F
TEL(03)5524-5230 FAX(03)5524-5228
HP: <http://www.jenti.or.jp> E-mail jimu@jenti.or.jp